泉穂のいまどき恋愛講座

私が今でもよく「夜遊び」をするのだ、と言うと、「えー、人妻でありながら、まだ遊びますか？」と驚く人たちがいるけれど、「夜遊び」はやっぱりすごく楽しいし、しかも色々お勉強になったりもする。特に私のような仕事をしていると、若者たちの流行には敏感な方がいいに決まっている！などと見え透いた大義名分を振りかざしたりするけれど、本音はただただ楽しいから止められないだけなのだ。そして、ミナミの遊び場で、モックン・カズローに偶然会ってしまったりする。

ところで、そういう遊び場で出会う男の子たちに言いたいのだけれど、声をかけてくる時に、どうしてあんなにワンパターンなわけ？そりゃあもう、みんな一緒なんだから。彼らが最初に聞くことと言ったら、「ねぇ、名前は？」「いくつ？」「どこに住んでるの？」「仕事、ナニしてんの？」の4つに限られている。それに答えないと、絶対に会話が始まらないというのは、一体どうしたことだろう！まるで事情聴取をされている気分よ、ホントに。

しかも、「いくつ？」と聞かれて「今年30」と正直に答えた時、「嘘やぁ、ぜったい嘘や」と言うのもワンパターン。あのねぇ、嘘言うたって、しゃーないでしょうが、と内心思いながらも「ホントよ」と言うと、「ホンマに？ホンマに？」と10回くらい聞き返した挙げ句、「ぜったい見えへんなぁ。若く見えるわ」と言うのもやめて。別に私、若く見られたいとも思ってないし、かえってシラけるだけなのよ。

もっとスマートに声をかけてくるイキな坊やはいないものでしょうか？はっきり言って、ほとんどいません。だから私は、彼らに期待をすることなく、自分からきっかけを作るわけですね。このコラムで何度も書いているように、最初は言葉よりも視線を使って誘うのだ。一緒にいる女友達が「そこまであからさまに見るか？」と驚くほど、見つめるのである！

そして、彼がこちらを同じように見つめるなら、多いに脈ありだし、こちらの視線を巧みに逸らすような場合はアタックしても無駄。視線が絡む時の感じで、もうほとんど結果が解かる。だから、あとは話が早い。駄目な場合はさっさと諦めて、手応えのある時は何度も何度も視線を彼に送る。するとそのうち、遠くの方にいる彼が口真似で「なぁに？」と言うか、私を手招きしてくれるというわけ。あるいは、私が彼を手招きする場合もあるけれど。

そして二人が近づいた時には、もうすでに「了解」のようなものがあるから、いきなり「名前は？」「いくつ？」なんていう馬鹿げた質問はまったく出ないものなのだ。普段はそういう質問で女の子を誘っている男の子だって、こういう始まり方をした時は、事情聴取をしないから不思議。とても良い感じで会話が始まるのである。大抵、お互いの名前や年齢や職業は、実にさりげなく会話の中で聞き出す、という理想的な状況が生まれている。

この誘い方は、今のところ、私のイチバンのオススメである。いきなり声をかけるよりも、絶対に成功率が高い！よく解からないわ、という女の子、そしてこの誘い方を本気でマスターしたい男の子は、連絡をください。一緒に遊んで、テクニックを手取り足取り教えてあげます。（なんで、手や足が関係あるのでしょうか、という質問はこの際、やめてください。関係ありません。関係あるのは、目です）ただし、あなたが私好みの男の子だった場合、私がいきなりあなたを誘ってしまうなんてことがあるかもしれないので、注意してください。

ところで、私が視線で始める恋をおすすめするのは、少なくとも相手に迷惑をかけないから。退屈な事情聴取で、相手の貴重な遊び時間を妨害することもないし、迷惑がられてこっちが傷つくなんてことも避けられる。それに、視線を送っている段階で手応えがあるかないかを感じる目を養うということは、恋愛そのものにおいて、相手の気持ちを推し量る目を養う訓練にもなるのだ。

あ、このヒト、ちょっと私との関係に飽きてるみたいだな、と気づく目を持てば、しばらくの間、上手に距離を作ることもできるし、それができるなら、やがて恋人はあなたの元に戻ってくると思う。

だから、恋愛上手を目指す人は、口ではなく、目をしっかり養おうよ。恋を誘う時にも、そして不必要な痛みを避ける時も、目は多いに役立つのだから。

【プロフィール】
1965年生まれ。同志社女子大学卒、㈱電通ブロックス勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかＦＭラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書に「ありふれた無邪気が罪になる」（ＰＨＰ研究所）、「キスまで待てない」（大和書房）など。

MARUOKA IZUHO

PARADISE YAMAMOTO

【プロフィール】
元東京パノラママンボボーイズのリーダー。富士重工デザインセンターでカーデザイナーとして活躍。現在マンボ画家のソリマチアキラらと東京ラテンムードデラックスで東京の音楽シーンの人気者。自身の選曲・監修による東京ダンスホールデラックスシリーズ（東芝ＥＭＩ）もダンスファン、渋谷系の若者に人気。パラダイス山元と東京ラテンムードデラックスのデビューシングル『洋酒天国』好評発売中。ソリマチアキラの唄にはシビレるゾ！

HAPPY DREAMS
ハッピードリーマーズ